

早春の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

二月二十一日、ホテル浜荘にて総会員数四十六名中出席二十一名、委任状十七名、都合三十七名の参加者を得て、第十一回平成二十五年支部総会を開催したところ、一号議案「事業及び決算報告、並びに監査報告」、二号議案「平成二十六年度事業計画案及び予算案」、三号議案「役員改選及び支部分担金名上げについて」等の予定された議案は全てご承認を頂きました。

またその後の懇親会には新田原基地副司令仲一等空佐、宮崎地本部長西谷一等空佐、第二十四普通科連隊長立山一等陸佐等の制服自衛官や、関係協力団体の長など七名のご来賓にもご臨席を賜り、盛会裏に終了したところで、

当日欠席の支部会員には、総会資料を同封致しましたのでご一読下さい。さて過日、私の大先輩でもある、軍事アナリスト小川和久氏より興味深いメールが届きましたので、お許しを得て皆様にも以下にご紹介致します。

フリーハンドを得つつある安倍首相

前号では、安倍晋三首相の「お友達」あるいは「応援団」に対するオバマ政権を中心とする米国側の厳しい視線が注がれていることに触れました。

米国側だけでなく、中国、韓国との関係修復も容易ではない雰囲気があります。

そして、ここにきて東京都知事選挙での田母神俊雄氏（元航空幕僚長）の六十万票超という「善戦」の結果が出て、日本の国家主義的傾向と一体で動いている安倍政権のイメージが強まり、日本は国際的に孤立するのではないかと懸念する向きも出始めています。はたして、そうでしょうか。

それは杞憂だと申し上げたい。ここでは、一般的な懸念とは逆に、むしろ安倍首相はフリーハンドを手にしつつあるという、ひとつの見方を提示させていただきたいと思えます。箇条書きで整理しておきましょう。

一、安倍首相は昨年十二月末の靖国神社公式参拝を実行したことによって、自民党総裁選における公約を果たし、支持者に対しても約束を守った。今後、対外関係によって参拝することがなくとも、信義にもとると非難されることはなくなった。

二、発言が物議を醸した作家の百田尚樹氏、埼玉大学名誉教授・長谷川三千子氏ら「お友達」「応援団」に対しても、NHKの経営委員等として処遇することにより、支援に報いる姿勢を示している。

三、百田氏、長谷川氏が問題発言するのは時間の問題と見られていたが、発言が問題化したことによって「お友達」や「応援団」は自重するようになり、

安倍首相は発言に呼応するようなタカ派的な言動をする必要が減っている。四、田母神氏については、新党結成と国政出馬が確実視されている。しかし、都知事選での支持者が社会的経験に乏しい若年層に偏っていたり、首相の手許に上がるレベルの情報で見ると自衛隊内部からは遊離していることは明らかとされている。放置しておいても政権運営の障害になるほど勢力を伸ばすことはないとみられる。その一方、田母神氏の支持者は安倍首相と心情的に通じる部分も多く、安倍政権の潜在的支持者のうちに含めてカウントすることも可能性としては考えられる。

以上のような要素を整理すると、安倍首相は「お友達」「応援団」に義理を果たし、おろそかにしていないという姿勢を示すことで足もとをしつかり固めつつ、長期安定政権の実現に向けて自在に舵取りをすることが可能になりつつあるという印象が強く感じられるのです。

安倍首相は、反対意見にも真摯に耳を傾ける姿勢をとり続けた結果、原発や集団的自衛権、憲法改正などについても、徐々に路線を修正し、しかも完成度を高めることに成功しています。

これは日本国内だけでなく、米国や中国、韓国についても言えることで、安倍さんは日本国の首相として毅然たる姿勢を示し続ける一方で、世界に通ずる路線への修正を進めていると見て構わないでしょう。

女性の権利、人権問題に関する言動を見ても、その一端をうかがい知ることができます。

米国が日本の国家主義的傾向に厳しい視線を注ぐのは、それだけ日本という同盟国が重要で、離反されては困るからです。

中国や韓国にしても、国境を接する日本という国が重い存在だからこそ、その反応を探るために色々なボールを投げている面があります。

そうした国際的な風あたりにひるむことなく、それを正面から受け止め、しかも世界に通用する方向に日本国の針路を修正していく事ができなければ、大宰相として歴史に名を残すことはできません。

このように眺めると、安倍首相は高度な戦略を駆使していると見ることができるとは思います。以上

皆様も様々な考えがお有りでしょうから、ご意見を拝聴できれば幸いです。杉花粉舞う季節の到来に付き、何卒呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成二十六年三月一日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部 支部長 小倉和彦

